

高温少雨のため草勢が悪く、黄化した株も多数見られた。ハマゴウの下で生育していたウンランの株は高温少雨の影響が少なく、9月12日時点では生育が良好であったが、10月11日にはほとんどの株が黄化した。11月25日にはハマゴウが落葉し、秋以降再出芽したウンラン株が見られた。1月17日にはほとんどの株の地上部が枯死した。

7 保護区以外の状況

(1) ナミキソウ自生地

4月12日に発芽した株が確認され、6月1日に開花が見られた。8月4日には高温少雨の影響により一部の株で黄化が見られた。11月25日にはほとんどの株が黄化し、12月13日にはほとんどの株の地上部が枯死した。

(2) デンジソウ自生地

5月12日に発芽後の生育株を確認。6月15日以降は生育旺盛となるが、11月25日には気温の低下によって

葉が茶褐色となり、1月17日には地上部が枯死した。

(3) ミズキンバイ自生地

4月27日にアシが発芽し始める中、ミズキンバイの発芽が見られた。9月19日に最接近した台風14号の影響により、9月21日にはアシは倒れ、地上部が枯死していたが、その下の水面でミズキンバイが見られた。11月17日には水位が下がり、アシの株元で伸長したミズキンバイが見られた。

(4) ミズスギナ自生地

10月21日に自生する3か所の池の状況を確認。A池は池の周囲の岸近くに多く群生していたが、B池所は2018年の調査時よりミズスギナの生育部分が減少していた。C池は2018年の西日本豪雨以降、2019年に少数の株が確認されたが、今回ミズスギナは確認されなかった。11月26日B池においてに池の日照の改善を目的に生育部分が減少した池の提及び周辺の除草を行った。

令和4年度ニホンカワウソ無人カメラ調査

生物多様性センター

国の特別天然記念物であり、本県の県獣に指定されているニホンカワウソは1975年に宇和島市九島で捕獲された個体以降、確実な生存情報はなく、愛媛県レッドデータ

ブック(2014年改訂)では絶滅危惧1類と評価されている。なお、環境省はニホンカワウソを絶滅種として判断しているが、愛媛県生物多様性センターでは2012年以降、センサーカメラを設置し、撮影データの確認を継続している。令和4年度、ニホンカワウソもしくはニホンカワウソの可能性のある哺乳類は撮影されなかった。

令和4年度 ニホンカワウソ無人カメラ撮影状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日

カメラ ナンバー	場 所	確認された哺乳類 種数	確認された鳥類 種数
1	宇和島市(半島の道路近くの水路)	ハクビシン、イノシシ タヌキ、ネズミ、イタチ	ヤマドリ、不明
2	宇和島市(半島の廃集落の水路)	ハクビシン、イタチ タヌキ、ネズミ	ハシブトガラス アオサギ、メジロヒヨドリ、ウグイス キジバト、不明

令和4年度特定外来生物等対応状況

生物多様性センター

生物多様性センターでは第2次生物多様性えひめ戦略に基づき、外来生物対策の推進を図っており、外来種に係る情報収集と対応を業務の一環として実施していることから、令和4年度の対応状況と今後の対応について特

定外来生物を中心に報告する。

哺乳類・鳥類1件、爬虫・両生類5件、魚類・甲殻類2件、昆虫・クモ類17件、植物3件の情報提供があり対応した。中予地域からヌートリアの確認情報があり、無人カメラと箱わなの設置を実施したが、確実な情報は得られなかった。

1 アライグマ

令和4年度の見撃・捕獲等情報は無かった。平成30